

今こそ医療・介護に本気の賃上げを！

#すべてのケア労働者に 大幅賃上げを



京都医労連は4月13日（木）、日本医労連も参加する医団連（日本医労連・保団連・全日本民医連・医療福祉生協連）の「診療報酬・介護報酬の臨時改定を求める中央行動」に呼応し、15:00~16:00で四条河原町にて署名宣伝&リレートークを行いました。京都社保協や京都総評の仲間も駆けつけ、参加者は約60人。12人の医療・介護現場のなかまや支援者から訴えがあり、署名付きはがきは200以上、署名は62筆を集約しました。同日夕方に四条河原町で京都社保協と京都総評合同の宣伝、京都協立病院前のスタンディング宣伝（25人）が行われました。そして各地域（14地域・230人）では、地域社保協と地区労協が数十年ぶりの宣伝行動を展開しました。



私たちの声を聞いてください！ リレートーク@四条河原町宣伝

「年末一時金下がった。多くの職員が退職を考えている。ベースアップが必要。」「必要な医療、ケアをするためには、圧倒的に人が足りません。」「介護の現場も、人手不足・低賃金で、やりがいを持たずにやめていくスタッフをなくしたい。」「スタッフが少なく、職員一人で10人前後の利用者を見守らないといけない。そんな状況では、休みがとれない。介護労働者は、賃金が低すぎる。」「今回のコロナ禍のようなことは、40年働いてきて初めてのことで、患者さんを選別し





ないといけないうようなことは、絶対にダメ！」「人員不足の下でコロナによって身体・精神を蝕まれ、職場を離れる仲間たち。低い賃金が離職を加速。人員不足が解消されれば、やりたい看護ができるし、やりがいをもって働き続けられる。」「介護事業のコロナによる倒産件数は急増。軍事費や大企業優遇のためではなく、医療や介護に。」「物価や水光熱の高騰で医療・介護の経営は圧迫。政府の責任で、ちゃんと医療・介護を支えて。賃金をあげ人員が増えるようにして。」「皆さん、入院したことありますか？ ナースコールが鳴っても、すぐに行けない。患者さんも気を使ってナースコールが押せない。私たちは、患者さんを待たせたくない。だから、人を増やしてほしい。」と医療・介護ではたらく現場の切実な声。

「区別なくすべての職員の賃上げをしたいが、実際には一部しかできていない。医療・介護施設に経済的支援が必要です。」と医療・介護経営者の立場から。「医療・介護労働者は人員不足の中で頑張っているのに報われず、疲弊していると聞いている。社会保障の充実を」と高齢者団体から。「中小企業も大変だけど、頑張っ

て賃上げをしている。医療・介護は必要なのに、十分な賃上げができていない。政府はしっかり医療・介護へ支援を。」と他産業の労働組合から。「介護労働者の賃金はまったく上がらず、副業をしている。そんなことしたら、ケアの質が落ちるのは分かっているが、政府は推奨している。副業しなくていい賃金を。」と介護の労働組合から。それぞれの立場から私たちの取り組みに共感し、マイクを持って訴えていただきました。



診療報酬・介護報酬の臨時報酬を！ 医団連中央行動

同日に行われた「診療報酬・介護報酬の臨時改定を求める医団連中央行動」には、香川副委員長が京都で集めた団体署名を持って集会（全国23県から109人）に参加。全国から集めた団体署名（全体で1,400筆）は厚労省に提出しました。集会後、京都出身の衆参厚労委員の3議員（山井・勝目・本田）を訪問し、医療・看護・介護現場の実態を訴え、陳情しました。「診療報酬・介護報酬臨時改定求める団体署名」がまだの組織は早急な取り組みの具体化を！！

